

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社岡三証券グループ（証券コード:8609）

【見直し変更】

長期発行体格付	BBB+
格付の見直し	ネガティブ → 安定的

岡三証券株式会社（証券コード: -）

【見直し変更】

長期発行体格付	BBB+
格付の見直し	ネガティブ → 安定的

■格付事由

- 岡三証券グループは、対面営業を中心とするリテール業務に強みを持つ準大手証券グループ。持株会社の傘下には、中核会社である岡三証券のほか地方の証券会社やシステム会社などの子会社を有する。同業他社からの事業譲受や提携関係にある証券会社とのアライアンス強化など業容拡大に努めているほか、連結子会社であった岡三オンライン証券を岡三証券が吸収合併し、証券基幹システムの移行・統合によるコスト削減を図るなど効率化にも取り組んでいる。
- リテール業務を中心に確立された営業基盤、リスク量対比で十分な資本水準などが格付を下支えしている。これまで、収益力の低下を主因に格付への下押し圧力が続くなか、格付の見直しを「ネガティブ」とし、システム統合によりコスト構造の改善を見通せるか確認してきた。今後、システムコストの大幅な削減が見込まれるうえ、追加の収支改善策も講じていることから、コスト構造の改善は可能と判断し、格付の見直しを「安定的」に変更した。持株会社の発行体格付については、岡三証券との一体性、ダブルレバレッジ比率の水準などを考慮し、構造劣後性は反映させていない。
- 23/3期は、株式市場の低迷や仕組債販売の抑制などを背景に連結純営業収益が前期比約1割の減少となったことに加え、システム統合にかかる費用の増加もあり、連結経常利益は4億円に落ち込んだ。もっとも、注力している富裕層顧客が増加しているほか、資産導入額が純増傾向で推移しており、口座数や預かり資産も拡大している。24/3期第1四半期では、株式市場の好転により国内外株式関連の収益が増加し、連結経常利益は45億円と急回復している。近年取り組みを強化してきた法人ビジネスの収益も、規模はまだ小さいものの好調であった。ただし、足元の利益回復は市場の追い風によるところも大きく、依然として市場環境の影響を受けやすい収益構造である。当グループは、富裕層向けを中心にコンサルティングを強化し、預かり資産残高に連動するストック型収益を拡大する方針である。また、システム統合によるコスト削減のほか、システム子会社の人材活用、業務の見直しによる生産性や効率性改善など追加の収支改善策も検討、実行中であり、こうした取り組みの進捗に注目していく。
- 23年6月末の連結株主資本は1,641億円、岡三証券単体の自己資本規制比率は396.9%と問題のない水準にある。トレーディングは原則として顧客フローに基づくものであり、抱えるリスク量は小さい。資金調達は、銀行借入のほかコールマネーやレポによる調達を中心である。国債などを中心に換金の容易な資産を潤沢に保有しているほか、コミットメントラインなどの与信枠も十分に確保しており、流動性にかかる懸念は小さい。

（担当）阪口 健吾・南澤 輝

■ 格付対象

発行体：株式会社岡三証券グループ

【見通し変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	BBB+	安定的

発行体：岡三証券株式会社

【見通し変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	BBB+	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2023年10月5日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：阪口 健吾
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「証券」（2014年5月8日）、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」（2022年9月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社岡三証券グループ
岡三証券株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル